

ジャパン・ハウス・サンパウロ開館式

麻生副総理スピーチ

平成 29 年 4 月 30 日

於：ジャパン・ハウス・サンパウロ

ミシェル・テメル・ブラジル連邦共和国大統領閣下，
アロイジオ・ヌネス・ブラジル連邦共和国外務大臣閣下，
ジェラルド・アルキミン・サンパウロ州知事閣下，
ジョアン・ドリア・サンパウロ市長閣下，
御列席の皆様，

世界で最初のジャパン・ハウスが，大統領始め多くの方々の御出席を得て，
ここサンパウロに開館し，日本政府を代表してこの式典に参加できたことを大
変うれしく思います。

ジャパン・ハウスは，日本の多様な魅力を海外の人々に知っていただきたい，
ステレオタイプではない日本の姿を知っていただきたい，「いかに日本を知ら
なかったか」に気づいていただきたい，そうやって幅広い方々に日本に関心を
持っていただき，そこから新たな活力ある交流を生んでいきたい，そういう思
いで始めたプロジェクトです。

その第一号がサンパウロとなったのは、日・ブラジル国会議員連盟の会長として、個人的にもうれしく思います。サンパウロは南米の経済・文化の一大中心地であり、また世界最大の日系人コミュニティを擁しております。ブラジル、さらには広く中南米地域に「日本」を発信する拠点として、最もふさわしい街であると確信しております。

このジャパン・ハウスがプラットフォームとなって、日本とブラジルの間で、新しいビジネスが始まる、大学間の共同研究が立ち上がる、若い日系人の方々に日本への新たな関心を持っていただく、ブラジルから日本への観光客が増える、両国が一緒に世界共通の課題に取り組む、そういった形で、ブラジルと日本をつなぐ輪がどんどん増え、拡大していくこと、これが、「ジャパン・ハウスが目指す未来」です。

ジャパン・ハウスが目指す未来は容易に達成できるものではない。時間もかかるでしょう。しかし、今日のこの日を節目に、日本とブラジルが一緒になって、「ジャパン・ハウスが目指す未来」を描いていければと思います。その未来に向けて、様々な才能や可能性がここジャパン・ハウスから芽吹いて、世界に羽ばたいていくことを期待して、私のあいさつを締めくくらせていただきたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

（了）